

# 登山月報



タルン・ピーク (7,349m)



第3回ユースオリンピックで金、銀獲得	2
第73回国民体育大会 山岳競技会報告	3
第120回 Mountain World	6
<b>新連載</b> 『日山協と私』	7
平成30年度レスキュー講習会(無雪期)	8
第12回 生駒チャレンジ登山大会	9
国体委員会活動近況	10
平成30年度理事会(第3回) 報告	11
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば、編集後記	12

## 第3回ユースオリンピックで金、銀獲得

2018年10月6日～18日まで、第3回ユースオリンピックゲームズ(以下、YOG)がアルゼンチン・ブエノスアイレスで開催されました。YOGは国際オリンピック委員会(IOC)のジャック・ロゲ会長が2007年に提案した、15歳から18歳までのアスリートを対象とした4年に1回開催される国際総合競技大会で、今大会よりクライミングが採用されました。

2020東京五輪に向けたオリンピックフォーマットが実施される大会で、クライミングは2000年と2001年世代の選手が対象となり、昨年度のIFSC世界ユース選手権および大陸別選手権大会などから男女それぞれ20名が選ばれました。さらに今回はIOC特別枠として男女1名が追加で選考され、21名で競技が行われました。日本からは男子：土肥圭太と田中修太、女子：中村真緒が出場権を獲得し、男子は金・銀メダルを獲得、女子は6位入賞を果たしました。

また、クライミングの競技日程は10月7日～10日の4日間でしたが、ユースの大会ということもあり、選手たちは競技以外の日程で他競技観戦や文化・教育プログラムを受け、他競技の選手や他国の選手と交流し教養を深めました。

### ◎女子

#### 【中村真緒】

- 予選：複合4位  
(スピード14位、ボルダリング1位、リード9位)
- 決勝：複合6位  
(スピード5位、ボルダリング2位、リード6位)



男子表彰式

予選では、スピードで自己ベストを更新、得意なボルダリングで1位に入り、苦手なリードでも粘って複合4位で決勝進出。決勝でも同様の戦略で表彰台を目指しましたが、ヨーロッパの強豪勢に阻まれ、6位入賞となりました。

### ◎男子

#### 【土肥圭太】

- 予選：複合1位  
(スピード9位、ボルダリング1位、リード11位)
- 決勝：複合1位  
(スピード2位、ボルダリング1位、リード3位)

#### 【田中修太】

- 予選：複合3位  
(スピード13位、ボルダリング9位、リード1位)
- 決勝：複合2位  
(スピード6位、ボルダリング3位、リード1位)

土肥はボルダリング、田中はリードと、それぞれが得意な持ち味を生かして2名とも決勝に進出。決勝では、土肥が1種目目のスピードで2位、2種目目のボルダリングで1位に入り、最終種目のリードが始まる前に複合での優勝が決まる中、田中はスピード6位・ボルダリング3位と出遅れ、リードで1位に入らなければ表彰台を逃すという緊迫した状況の中、見事リードで1位を獲得し、複合で準優勝に輝きました。

最終日の男子決勝には、IOCのトーマス・バッハ会長はじめ、日本オリンピック委員会(JOC)の竹田恆和会長ほかIOC・組織委員会役員など多くの方々

が来場され、選手たちに激励の言葉をかけて下さいました。

これまで日本は複合でメダルを獲得できず、しばらく苦戦を強いられていましたが、YOGでは選手全員が複合のメダルに向かって集中し、一人ひとりがこれまでにないくらい最高のパフォーマンスを発揮し、チームとしても自分たちの役割を全うしてくれました。選手はじめ応援してくださった皆様に感謝致します。

(記 チームリーダー 西谷善子)



チームJAPAN



# 第73回国民体育大会 福井しあわせ元気国体山岳競技報告

自然豊かで四季折々の景色を醸し出す、福井県池田町において昭和43年の第23回大会から50年ぶり2回目の「明治150年記念 第73回国民体育大会福井しあわせ元気国体2018」が「織りなそう 力と技と美しさ」をスローガンに、池田町立池田小学校、中学校特設会場において、10月5日～7日の3日間、高円宮絢子女王殿下のご臨席を拝し、開催されました。



今回の国体では、台風の影響で競技中止や延期が相次ぎ、本大会においても台風25号の接近が予想され、計画輸送や従来の運営に拘らない対応が求められる大会となりました。

計画輸送時間が、約75分を要することとなり、選手・監督は競技会場に到着後の「受付から集合・点呼」の間に、すぐにアイソレーションに入らず、競技エリア以外での「リラクスタイム」を設定しました。

2日目には、台風25号の進路によっては暴風雨の影響で、「競技中止」「競技方法の変更」などを想定し、選手・監督、競技関係者の安全と競技結果を出すというミッションを、選手・監督、競技関係者の理解と協力により遂行することができました。

本大会も、多くの中学生の出場がありました。少年男子で6名、少年女子で11名が出場し、中学生のみのチームが少年男子で1チーム、少年女子で1チームの出場がありました。成年男子の「欠場」があるなかで、将来性のあるユース層への期待は大いに高まりました。

中学生2名によるチーム入賞は、少年女子で2種目入賞が1チーム、1名の中学生を擁しての2種目入賞が少年男子で1チーム、少年女子で4チームありました。少年女子の強化・育成が進んでいるものと感じました。その選手をソフト面からサポートする、「トレーナー」は全体で31名(19都道府県)の帯同でした。その一方で、ナンバーカード忘れ、持ち込み禁止物品等での、イエロー

少年男子リード決勝

順位	県	氏名	高度	順位個人
1	愛媛	井上遼 大政涼	40+ TOP	4 2
2	滋賀	伊勢一真 前田健太郎	37 41+	7 3
3	埼玉	百合草碧皇 鶴隼斗	TOP 29+	1 12
4	栃木	茂呂居居人 川又玲瑛	34 34	8 8
5	神奈川	天笠颯太 伊藤寛太郎	40+ 26+	5 14
6	岩手	中島大智 石嶋魁人	39+ 25+	6 16
7	山口	久野純 久野友嵩	29.5+ 27	11 13
8	愛知	野中凜 小宮山敦士	32+ 26+	10 15

少年男子ボルダリング決勝

順位	県	氏名	T	Z	順位個人
1	栃木	茂呂居居人 川又玲瑛	3 4	4 2	6
2	埼玉	百合草碧皇 鶴隼斗	4 2	4 11	1
3	北海道	坂本大河 竹内悠真	3 3	4 7	5
4	神奈川	天笠颯太 伊藤寛太郎	3 3	4 8	4
5	宮城	渡邊昂玖 竹田創	4 1	4 12	3
6	滋賀	伊勢一真 前田健太郎	2 1	4 15	9
7	福岡	雪丸周平 緒方万佐也	2 1	4 14	10
8	大阪	三根生慶太 平澤鼓太郎	1 1	4 13	13
			1 3		16

少年女子リード決勝

順位	県	氏名	高度	順位個人
1	東京	菊地咲希 柿崎未羽	40.5+ 41+	3 2
2	茨城	森秋彩 菊池野音	TOP 35+	1 10
3	大阪	黒岡水夢 中川瑠	39 40+	8 4
4	愛知	倉菜々子 石井未来	39.5 35	6 12
5	福井	野村遥 直井友希	38+ 35	9 11
6	佐賀	樋口結花 渡島夏希	39.5+ 22+	5 16
7	神奈川	菅原亜弥 松藤藍夢	29 39+	14 7
8	福島	滝口萌 林あいり	32+ 27+	13 17

少年女子ボルダリング決勝

順位	県	氏名	T	Z	順位個人
1	神奈川	菅原亜弥 松藤藍夢	3 4	4 1	6
2	愛知	倉菜々子 石井未来	4 2	4 8	1
3	大阪	黒岡水夢 中川瑠	3 4	4 4	9
4	東京	菊地咲希 柿崎未羽	4 1	4 13	3
5	福井	野村遥 直井友希	3 2	4 12	7
6	茨城	森秋彩 菊池野音	3 1	4 14	5
7	福島	滝口萌 林あいり	2 1	3 15	10
8	佐賀	樋口結花 渡島夏希	2 1	3 11	11
			1 1		16

成年男子リード決勝

順位	県	氏名	高度	順位個人
1	埼玉	波田悠貴 本間大晴	36+ 37+	4 3
2	佐賀	尾崎晃一 樋口純裕	27+ 38+	13 2
3	茨城	沼尻拓磨 野村真一郎	32+ 36+	10 6
4	岐阜	亀山凌平 日比野良祐	36 33	7 9
5	北海道	國谷斗馬 杉本怜	18+ 39+	16 1
6	鳥取	高田知堯 河上紘輝	34+ 29+	8 11
7	愛媛	清水裕登 渡部慎一	36+ 26	15 15
8	千葉	村井隆一 島谷尚季	29+ 27	11 14

成年男子ボルダリング決勝

順位	県	氏名	T	Z	順位個人
1	埼玉	波田悠貴 本間大晴	3 2	4 5	1
2	福井	藤脇祐二 中上太斗	3 2	3 9	3
3	岐阜	亀山凌平 日比野良祐	2 2	3 4	7
4	千葉	村井隆一 島谷尚季	3 0	4 2	16
5	大分	一宮大介 島田蒼也	1 2	2 6	12
6	和歌山	小畑侑大 小畑佳功	1 2	2 8	13
7	茨城	沼尻拓磨 野村真一郎	1 1	2 10	14
8	佐賀	尾崎晃一 樋口純裕	0 1	2 11	15
			1 3		11

成年女子リード決勝

順位	県	氏名	高度	順位個人
1	茨城	小林由佳 野口啓代	42+ 45+	3 1
2	三重	義村萌 田嶋あいか	39+ 45+	6 2
3	福井	尾上彩 廣重幸紀	38+ 41.5+	9 4
4	山口	大田理姿 小田桃花	41.5+ 38+	5 8
5	長崎	原田朝美 大河内芹香	36+ 33+	10 12
6	大阪	森脇ほの佳 川又あずさ	38+ 18	7 16
7	埼玉	加島 智子 坂井 絢音	33+ 34+	12 11
8	福岡	宗緋悠佳 新嵩萌香	21+ 25	15 14

成年女子ボルダリング決勝

順位	県	氏名	T	Z	順位個人
1	長崎	原田朝美 大河内芹香	2 4	3 3	9
2	東京	野中生萌 木暮花	4 2	4 10	2
3	茨城	小林由佳 野口啓代	2 4	2 1	11
4	三重	義村萌 田嶋あいか	2 3	3 4	8
5	福井	尾上彩 廣重幸紀	2 1	3 12	7
6	山口	大田理姿 小田桃花	0 3	2 5	14
7	和歌山	杉村紗恵子 加藤遥	2 0	4 0	6
8	福岡	宗緋悠佳 新嵩萌香	0 0	1 13	15
			0 3		13



リード会場と風速計



ボルダリング会場(成女ボルダリング決勝)

カードはリード競技で4件、ボルダリング競技で2件ののぼりました。なお2件はチームイエローとなり、減少傾向はみられるものの、監督の責任は大きいといえます。負傷による、棄権が一件ありました。

### 【リード競技】

抗議は3日間で9件あり、到達高度判定に関するものでした

競技2日目、成年女子は競技を終了することが出来ましたが、成年男子競技直前に降雨となり、一時間の開始を遅らせ競技方法を「都道府県ごとのチームスタートを行わず、各ウォールにて連続的に競技を行う」ベルトコンベア方式で行いました。幸い、時間内に終了することができ、翌日の決勝を迎えることになりました。選手・監督、競技関係者の理解と協力で乗切ることができました。

完登者は、成年女子で予選2名、少年男子で予選1名、決勝2名、少年女子で予選2名、決勝1名でした。少年男子で百合草碧皇(埼玉県)、少年女子で森秋彩(茨城県)が予選・決勝ともに完登しました。成年男子では、代表選手の杉本怜(北海道)がリードで1位でしたが、埼玉県の波田悠貴4位、本間大晴3位が揃えてチームとして1位を獲得しました。成年女子は茨城県の野口啓代が予選完登し、決勝もTOPに迫る登りで1位となり、チームは予選2位からの逆転となりました。開催地の福井県は尾上彩38+、廣重幸紀41.5+で予選通過順位3位を死守しました。

少年男子では、前年開催県の愛媛県が大政涼の完登、井上遼の40+で1位、少年女子では、東京都の菊池咲希と柿崎未羽がTOPに近づく登りで、予選トップ通過の茨城県をかわし1位となりました。

### 【ボルダリング競技】

初日の成年男子第2、3班の競技で、高円宮絢子女王殿下のご臨席がありました。鳥取県の第3、4課題完登をご観戦いただくことができました。

抗議は3日間で3件あり、ゾーン保持までのアテンプト数、ゾーンの保持によるもので、ビデオ判定の結果1件を有効としました。

完登者は、成年男子で予選3名、成年女子で予選3名(1撃完登2名)、決勝3名(1撃完登1名)、少年男子で予選1名、決勝2名、(1撃完登1名)、少年女子で決勝4名でした。とりわけ、予選・決勝を通して、成年女子、野口啓代(茨城県)は堂々の一撃完登を果たし、決勝で第3課題まで争った野中生萌(東京都)とともに海外の大会疲れをもろともせず素晴らしいパフォーマンスに観客は魅了しました。

結果は、チーム競技として、予選順位4位の長崎県がゾーン、アテンプト数で1位となりました。

成年男子は、ボルダリングでは代表の渡辺桂太(三重県)が予選では1位となるがチームとして12位となり決勝に進めず。チーム戦の難しさがでました。逆にボルダリングを苦手とする埼玉県は予選5位でしたが、決勝では波田悠貴が3完登4ゾーンで1位となり、各選手がこずる1課題目を本間大晴とともに1撃完登。ここで勢いに乗り1位を呼び込みました。

少年男子は、予選、決勝とも完登した川又玲瑛、3完登4ゾーンの茂呂居岳人を擁する栃木県が圧勝しました。少年女子では、決勝で全完登の松藤藍夢、3完登の菅原亜弥チーム(神奈川県)が、1位となりました。

### 〈男女総合、女子総合成績〉

天皇杯順位		皇后杯順位	
1位	茨城県	1位	茨城県
2位	埼玉県	2位	東京都
3位	福井県	3位	福井県
4位	東京都	4位	大阪府
5位	神奈川県	5位	愛知県
6位	大阪府		三重県
7位	栃木県	8位	長崎県
	愛知県		神奈川県



## 【天皇杯、皇后杯(男女総合、女子総合成績)】

茨城県(競技得点96点)が、来年の国体を控えた強化の成果が証明された「総合優勝」でした。前年度優勝の埼玉県(93点)は、僅差で2位となり、この二強時代が続くのか否か。来年が楽しみとなりました。

開催県である福井県は、選手強化と国体運営を担いながらもみごとに天皇杯、皇后杯で3位に入賞を果たし、昨年同様に力を発揮し、大いに競技場は盛り上がりました。さらなるご活躍をご期待いたします。

種目得点を獲得したチーム数は、天皇杯24都府県、皇后杯14都道府県となりました。

成年男子で不参加が1府、ブロック大会不出場が成年女子で5府県、少年男子で3県、少年女子で2県ありました。さらには、2種別不出場が1県ありました。このような状況が続くと、出場選手数の削減につながることを意味し、猛省と出場をお願いします。

今年も昨年同様に、リード、ボルダリング競技ともに決勝に残ったチームが多く、成年男子で5チーム、成年女子で6チーム、少年男子チームで4チーム、少年女子が全チームと、総合力の高さが求められる結果となりました。

## 【競技運営】

今大会は、開催地の環境(会場との距離)や天候で運営の変更(計画的、フレキシブル)を行いました。問題なく遂行でき、これは、来年の競技名称変更だけでなく今後の国体のスポーツクライミング競技のIFルール化に十分対応できると感じました。

なお施設面では、台風の接近により風速計を設置し、瞬間最大風速や常時の風速管理を行いながら課題も見えてきました。大きなものとして、屋外仮設施設について、作業用の高所作業車は「風速8m以上では作業はできない」こと。このことは、強風下でのリード競技のルートセットが無理であること。また、アイソレーションとしていた大型テントは、「風速15m以上では危険」であり、撤収にあたってのクレーン車が高所作業車同様に「風速8m以上では作業はできない」こと、が判明しまし



中学生スタッフ

た。

爆弾低気圧や台風などの通過が多いこの時期、選手・監督、観客、関係者の安全確保と競技遂行を考えると、屋内競技場での開催が強く望まれる結果となりました。

10月6日夜には、瞬間風速14.5m/s。ルートセットを一時中断(1時間強)しながら、8m以下で風速管理を行い、23時に作業は危険と判断し終了しました。

観戦者	リード	ボルダリング	報道
10月5日	680人	933人	13人
10月6日	752人	1044人	16人
10月7日	1437人	1506人	30人

\*ボルダリング決勝では会場が満杯となりました。

## 【お礼】

会場地の池田町(人口2600余人)では、中学生補助員も動員し、町あげて競技運営やおもてなしが伝わる大会でした。大会期間中の、町民ご提案の「手づくりお弁当」、総合表彰式までの軽食のご提供などはとても心暖まるもので好評でした。

荒天にともなう変則的な競技となり、池田町実行委員会、福井県山岳連盟、競技会場の池田中学校、小学校をはじめ関係者の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。



(記 国体委員長 西原斗司男)

あこがれの名峰に、短期間でチャレンジ!

【山籠り入り】キリマンジャロゆったり登頂と  
アルーシャ国立公園サファリ 10日間

発着地 東京 旅行代金 526,000円~618,000円

出発日 12/14(金)・12/28(金)・1/18(金)・2/8(金)・2/22(金)・3/6(水)

※燃油サーチャージ(2018年9月20日現在:目安約0円~21,500円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員

ALPINE ツア サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

## 第120回 Mountain World

### グルジャ・ヒマール キム・チャンホの遭難

池田常道

韓国の8000m峰14座登頂者キム・チャンホ(49)が10月12日、ダウラギリ山群のグルジャ・ヒマール(7193m)で遭難死した。3500mに地点に設営していたBCが嵐に襲われて壊滅、隊長以下5人とシェルパ4人が亡くなった。

当初『BBCニュースオンライン』によって「大嵐に襲われた」と速報され、次いで『ヒマラヤンタイムズ』が「大規模な地滑りがキャンプを襲った」と報じた。しかし、搜索に飛んだヘリコプターからの動画が『アンナプルナポスト』によってユーチューブに投稿されると、却って謎は深まった。一行の寝袋(と、おそらく遺体)はまったく雪のない草地やボルダーの点在する斜面に散らばっていた。

おりからの嵐で強風がキャンプを襲ったか、あるいはセラックが崩壊した衝撃波でテントごと吹き飛ばされたのではないかという推測も成されている。

犠牲になったのは、韓国側がキム隊長以下、ユ・ヤンジク、イ・ジェフン、ジョン・ジュンモ、撮影担当のリム・イルジンの5人、ネパール側がツェリン・ポーテ、ラクパ・サンブ・ポーテ、ネトラ・バハドウル・チャンテル、プルブ・ポーテの4人だった。全員の遺体は強風の治まった3日後に収容され、2機のヘリコプターで8人はカトマンズへ、ネパール側の1人は直接故郷の村へと運ばれた。

キム隊長は、2013年に8000m峰14座登頂を達成した。メスナー以来31人目で、韓国人としては5人目となる。彼は全14座を無酸素で登った14人目の人物でもある。また、完登までに要した年数は、イェジ・ククチカ(ポーランド)の7年11カ月を上回る7年10カ月の最短記録となった。

今回一行が目標にしていたのは、グルジャ・ヒマール南壁に新たなルートを開くことで、おりからの朝鮮半島南北融和ムードを反映して「ひとつの朝鮮」と名付けるつもりだったという。

\*

グルジャ・ヒマールは1969年秋に登山が解禁され、薬師義美隊長の富山隊が西面のカペ氷河からグストウン(6529m)北稜を乗越すルートを経て西稜をたどり、

11月1日に佐伯友邦とラクパ・テンジンが初登頂に成功した。

第2登は72年のフランス・リヨン隊で、ブノワ・マチューとシルヴァン・サルトゥが北稜から10月21日頂上に立ち、ピエール・ビュタン隊長夫妻とジャック・スービ、シェルパ2人も西稜を第2登した。

地味な山なので登山隊が相次ぐこともなく、たまにヨーロッパの公募隊が訪れるくらい。最後に登られたのは1996年のことだという。通算登頂回数はわずか30程度に留まっている。

\*

キム・チャンホは2005年7月、39歳のとき、イ・ソソンウォン隊長のナンガ・パルバット(8126m)隊に加わってルパル側の南南東側稜(メスナー・ルート)を第2登。一緒に登頂したイ・ヒュンジョ(34)とともに、1970年のメスナー兄弟のようにディアミール側へと下降して西壁BCに下りた。

35年前の1970年、ラインホルト・メスナーが弟ギュンターを失って下りてきたとき、ここは無人の草地にボルダーが転がっているだけだった。いまや西壁のルートはすでに出来上がっており、キムとイの唐突な出現は居合わせた登山隊を驚かせると同時に、暖かい歓迎も受けることができた。

キムが14座完登を果たしたのは2013年のエヴェレストだった。この特別な登山に彼は海拔0mのガンジス河口からすべて人力で頂上まで行こうと考えた。いわば90年にティム・マッカートニー＝スネイプ(豪)がやったSea To Summitの現代版だ。キムはまずカヤックを漕いで大河を156km遡り、サイクリングで北インドを走って896km先のトゥムリントンへ。最後の162kmはトレッキングでBCに到着、サウスコルから頂上を往復した。

14座達成後も、またその途中でも、彼はヒマラヤ通いを欠かさなかった。2008年にはカラコルムのバトゥラII峰(7762m)の初登頂を成し遂げ、2012年にはネパールでヒムジュン(7096m)に初登頂して、アン・チヨンとともにピオレドール・アジアを受賞した。2016年には同じくネパールのガンガプルナ(7455m)に挑んで南壁を初登攀し、2017年にはインドのヒマチャール・プラデシュでダラムスラ(ホワイトセール。6446m)北西壁も登った。

「ヒマラヤの隅々までめぐりたい」と生前語っていたとおりの登山人生だった。



# 『日山協と私』

愛媛県山岳連盟顧問 西田 六助

## 指導員との関わり

日山協との関わりを持ったのは、確か昭和46年和歌山県での黒潮国体であった。

高校登山部の顧問として新米の身で厚かましくも監督として参加。高野山で集合し、護摩の檀山から龍神温泉へ、そして果無山系を南へと歩き、本宮へ。随分と長く、まだかまだかとの思いをしながら歩き、温泉に入ると湯の花が一杯にあって、何だろうと戸惑ったことがあった。

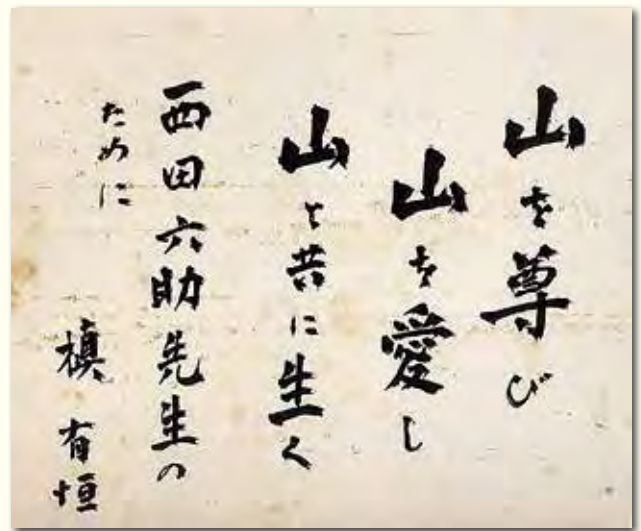
また、折角、顧問になったのだから少しは登山に関する勉強をしなくてはと、昭和46(1971)年の夏、私が文部省登山研修所に研修生として参加し、1週間みっちり研修を受け、所内に高さ15mの人工壁があり、初めてクライミングなるものの基礎的な手ほどきを受けたのであった。

丁度、榎有恒さんが来られていて、同室の仲間が色紙を用意しており、共に色紙に一筆書いてもらおうとおそろおそろお願いしたところ本当に快く「お名前は」と聞いて、さらさらと書いていただいた。

同時の榎さんは日本山岳界における重鎮で近寄りがたい存在であり、私は登山のことは何も分からない駆け出しのときであった。それから半世紀近くになり随分とくたびれた感じはするものの地元山岳会の記念誌などのグラビアに使い、その後、機会あるごとに取り出してきた。『山』を『人・自然』に置き換えてみると、我々の生き方に示唆を与えているような気がするのです。

この研修会を機会に、登山に興味を持ったことは確かであり、少し勉強をしてみようと思い、山岳指導員関係などでも関わりができ、二種・一種指導員そして上級コーチへ、そのため3月の富士山への研修会には随分と参加し、積雪期の山頂にも何回か登ることができたのです。

平成に年号が変わり、スポーツ指導員制度が、各団体の認定から日本体育協会の認定に一本化され、その移行講習などが実施され、平成5(1993)年「A級コーチ」の前期認定講習が東京で行われ、実技研修が翌年の2月初めに丹沢(神奈川県立登山研修所)で実施されることになっていた。ところがこの時期、勤務先の水産高校の実習船の指導教官として太平洋上にあり、参加



できないので出発前に連絡して3月の冰雪研修会に参加できるよう段取りをしてもらい、これを認定講習に代えるという特別の配慮をしてもらったのであった。

その時の様子を少し記してみたい(記録の抜粋)。

3ヶ月間の実習船から帰宅して、休む暇もなく準備をしていると肝心のアイゼンとピッケルがない、妻が「さとし(子供)が持って行ったよ」とのこと。浜松に就職しているので間にあわない。さてどうするか、東京まで飛んで、買っていかかど・・・家には一晩いたのみで、研修会の前日、幸いにも飛行機便が取れ、東京で購入して新宿からバスで富士吉田へ、そして佐藤小屋のご主人の家に泊まることになった。この時、増子春雄氏が来るということであり、翌朝、顔を合わすことができた。

5合目の佐藤小屋に早めに到着して、小屋周囲の除雪や受け入れ準備を手伝い皆さんの来るのを待つ。午後になって参加者が到着、その中に前愛媛岳連会長の青木正樹氏がいた。そうしていると「西田先生ですね」と声を掛けられる。宇和島市の高校登山部に居た方で、埼玉県岳連に所属していて来ましたとのことであった。同じ愛媛県関係者が参加していることに心強く思われた。



火口縁の久須志岳からの剣ヶ峰

今回、資格認定のための参加者は私一人かと思っていたら、他にもいて8名とのこと、今回の総参加者は日山協関係者を含め49名であった。

夜は机上講習、翌日は登攀・滑落訓練などなど。新しいアイゼンのため着脱の練習ができていなくなかなか思うように素早くできず、増子さんに叱られる場面もあった。

最終日は午前中に山頂往復である。天気は良い、朝、暗いうちから起きだし、準備をし、今回は登ることのみに専念するぞと考え、登り始める。山頂下の鳥居の所で、増子さんが「あと少し、頑張ろう」と声を掛けてもらい、何とか先頭集団で浅間大社標柱横を通り、火口縁の久須志岳にたどり着いた。

下山に向かう、最初はアイゼンの利きも良く気持ち

よく下っていたが、八合目あたり少し疲れが出たなどと思ったら「アッ、イタタ・・・」大腿部に痛みが走る。やはり、トレーニング不足だったか。3か月のトレーニング不足の影響かと思われたが、たいしたこともなく早めに小屋に到着した。

帰途は広島岳連の車で三島駅まで送ってもらい、その日のうちに帰宅することができ、幸運であった。

十分なトレーニングと体調管理、そして装備の使いこなしをしておくことが肝要であった。なにはともあれ、いろんなアクシデントがありながら、日山協の役員の方々や参加の皆さんには本当にお世話になり、無事に研修を終えることができた。

(日本山岳・スポーツクライミング協会 参与)



## 平成30年度レスキュー講習会(無雪期)

今年度のレスキュー講習会(無雪期)は8月31日(金)～9月2日(日)に富山県の国立登山研修所にて開催された。初日と2日目はあいにくの雨に見舞われた。夏の講習会で雨に見舞われたのは今回が初めてである。受講者は定員の35名に対し、前日のキャンセルが2名発生したため33名となった。

31日は13時より開校式、その後、昨年17年度の遭難事情と日山協遭対委員会の今後の取り組みについて町田より報告した。6月全国遭対委員長会議で青山氏が報告した内容に沿って、昨年度の山岳遭難における特徴や日山協、労山、J i R Oからのアンケートをベースに行った解析結果を報告した。遭対委員の取り組みとしては減遭難活動の一環として夏山リーダー制度の運営を促進すること、遭難者の救出率を向上させるためのココヘリ導入について現在検討していることを報告した。



開校式で挨拶する町田委員長

14時からは各クラスに分かれての講習会を実施した。今年は初日から雨のため全クラス屋内での講習会となった。縦走ハイキングは瀬藤主任講師が担当した。運動生理学や悪場での通過に対応するためのロープワークなど遭難防止のために必要な知識や事前準備について学習した。また、事故が起きた場合への対応として救助要請のための連絡法やファーストエイドについて講習した。最終日は晴れ間も見えたので屋外で事故を想定したシミュレーションを行った。事故者への声掛けから観察、応急手当から搬送へと救助隊に引き渡すまでのシミュレーションであったが、いざ現場となると講習会で学んだはずの技術を発揮するのは難しいようであった。しかしながら、個々の技術の必要性とその意味を理解するには大変良いシミュレーションであったようだ。

クラスA～Bではロッククライミングでのセルフレスキューを学習した。クラスAは昨年に引き続き松本(善)主任講師が担当した。このクラスはレスキューに必要な基礎技術を習得できるよう昨年度から新たに設定したクラスである。受講者はクライミングを始めて間もない方から、もう一度レスキュー技術を基礎から確認したいといったベテランの方が参加していた。トップの墜落を想定したセカンドの確保姿勢からの離脱では62kgのダミーを落とし、実際の衝撃を受けた状態から脱出を行うなど実践的な講習が行われた。半数の方が初めて行うことばかりだったらしく、個々の技術を理解し納得いただけるよう講習したため予定よ





人口壁でのセルフレスキュー風景

りも時間を要していたようだ。

クラスBは新任の松本(光)主任講師が担当した。内容はクラスAから一歩進んだセルフレスキューを学習した。リードの墜落、セカンドの墜落それぞれを想定した講習でクラスA同様に実際のダミー墜落も経験していただいた。ただ、一番人数が多いクラスだったので順番待ちが出てしまい手持無沙汰な受講者が見られた点は今後の反省である。最終日は外の人口岩場を使い、短い距離ではあるが実際にパートナーを自力で下す講習を行った。講師が慣れていないせいもあって、ベテランの受講者から意見いただく場面もあり、講師側の指導力にブラッシュアップの必要性を感じた。

クラスCは新任の井上主任講師が担当した。初日は屋内でレスキューに必要なロープワークや手順について、確認の意味での基礎講習を行った。定員を8名としたことで2名ごとのパーティーによる効率的な講習が行えた。クラスCではパートナー1名のレスキューのみならずコンパニオンレスキューとして多人数によるレスキューも学習した。3分の1引き上げシステムや2名分の吊り下げなど、より高度な技術を学習した。また、このクラスはほかのクラスに比べ、消防関係者の参加が多かった。消防士はクライミングを普段



女性同士によるレスキュー講習風景

行っていない。よって、求めているレスキュー技術はクライマーのみなさんとはやや異なる。昨年まで行っていたワークレスキューのクラスがなくなったことで、やむなくより実戦に近いクラスCに参加したらしい。消防士の方々には事前にクライミング技術についても説明する必要があり、講習会の運営方法に今後検討の余地がある。

今回は2日間の雨に見舞われ、講習内容を一部変更した部分もあり、雨を想定した講習会への事前検討も必要であった。また、講師の若返りも今後ますます必要であり、これに伴う講師陣のスキルアップも考えなければならない。積雪期は1月25日～27日にみなかみ町の土合で開催予定である。今回もリピーターの受講者が数名見られたが、より多くの方々への技術伝達を図るため新たな方々の参加を望む。

(遭難対策委員長 町田幸男)

## 第12回 生駒チャレンジ登山大会

(一社)大阪府山岳連盟

今年で12回目となった「生駒チャレンジ登山大会」を紹介します。この大会は、交野市水辺のプラザをスタート会場として八尾市高安山ケーブル駅をゴールとする全長32kmのトレランとウォークをコンバインドした大会です。毎年10月の開催の為、ここ数年は天候に災いされ、今回も昨年の大雨と台風21号の爪痕が随所に残され、コース変更と整備に多くの汗をかきました。大会当日も直前まで不安定な天候にヤキモキさせられましたが好天に恵まれ参加者が約700名に上り、胸を撫で下ろしました。大会の様子は当連盟のHPに紹介されていますのでご覧ください。

このコースの楽しみは、何と言っても大阪と奈良の県境である竜の道とも称される展望が随所に眺められ

### 平成30年度山岳レスキュー講習会(積雪期)開催

期日	2019年1月25日(金)～27日(日)
会場	群馬県みなかみ町・土合山の家周辺
定員	クラス1(16名)、クラス2(16名)、 クラス3(12名):
受講費	クラス1(一般21,000円、学生15,000円) クラス2・3(一般18,000円、学生12,000円)
受付開始	12月3日(月)より
申込締切	1月11日(金)必着
問合せ	<a href="http://www.jma-sangaku.or.jp/infomation/">http://www.jma-sangaku.or.jp/infomation/</a>



ることです。コースの特徴としては、アップダウンの少ない初心者向けのものです。因みに今回の最高タイムは2時間12分でした。これからトレランを始めてみようとしている方々にはお勧めのコースです。トレランは午前7時からの10分間隔、ウォークは午前6時からの随時スタートとし、コースの混雑を緩和させています。また、遠地からの参加者には格安の宿も紹介させていただいています。また、ウォークには体力に応じたそれぞれのゴールを用意していますので家族連れも数多く参加されています。そしてコースには道迷いの無いよう多くのスタッフがフォローしていますので安心して参加できる大会でもありますので、全国からの参加者をお待ちしています。

## 国体委員会活動近況

本委員会は例年国体後の10月、国体総括と次年度国体への課題整理、ブロック別研修会等への取組みについて、「委員会兼研修会」を開催し委員会全体で情報の共有化を図っている。今年度は、10月20日(土)～21日(日)国立オリンピック記念青少年総合センターにて、1泊2日の日程で開催した。参加者は、常任委員10名、専門委員5名、委任3名であった。宿泊を伴うと、地方の委員も出席が容易となり、在京を中心に毎月一回開催される委員会に比して、地方の情報共有などその効果は大きいといえる。

本委員会の任務は、①国体山岳競技会の準備、運営、施設、審査、指導 ②国体競技運営員の養成、認定、指導 ③ブロック別研修会運営である。当然のことながら、国体には47都道府県予選会、北海道を含む9ブロック大会があり、その結果が本国体出場につながる。その大会のみならず、選手・監督の資格審査は重要でそれらの任務も担っている。また今年度は、11月末に第79回(2024)年国体滋賀県大会の、会場地正規視察が予定さ

れるなど、後催県指導も重要な役割で、そのポイントについても議論を行った。

なおこれらの問合せに、多忙な本協会事務局の手を煩わせている現状で、大変申し訳ないと思っている。

委員会として、役割分担の明確化も課題の一つで、常任委員、専門委員の役割分担についても議論を行い、改善できるところから行うこととなった。

さて今年度開催された「第73回国体福井しあわせ元気国体2018」では既報のとおり、多くの経験を積むことができ、この成果を来年度第74回茨城国体に継承しなければならない。

一つには各競技方法や運営についての見直し＝チーム競技とIFルールへの準拠＝と実施時期だ。そして、これらの方向性を見定め、ブロック別研修会における周知については、夜を徹しての議論が続いた。当然のことながら、次年度以降の国体を円滑に推進する方策について、県岳連(協会)のみならず(公財)日本スポーツ協会(JSPPO)、開催地都道府県、会場地市町との調整も必要で、県岳連(協会)に寄り添いながら進めるよう、後催県委員からも貴重な意見が出された。

しかしながら、「西郷どん」ではないが「廃藩置県同様、覚悟をもって臨まなければならない時もある。

また成年男子種別における不参加について論議し、JSPPO「国体競技改革アンケート」の主旨である、「少年種別の充実」「女子種別の充実」「各競技参加者人数見直し」について、委員会として「現行の、競技参加人数、参加県数の死守」「少年種別、女子種別の充実の理解」を基本に据えることを再確認した。なお、成年男子不参加岳連のみならず、ブロック大会不参加岳連へも、担当委員を定め個別指導を行い、引続きブロック別研修会等を通じて指導することとした。

なお国体におけるアンチ・ドーピングの取組みとして、(公財)日本アンチ・ドーピング機構主催の、「教育活動者向け講習会」受講の報告もされ、受講前「Eーラ





ンニング」への理解の重要性が指摘された。

委員会における情報共有は重要で、課題整理も迅速に図る必要性から、「情報ツール」への取組みを強化することとし、今回、パワーポインターを用いグループウェア導入と利用方法についてプレゼンを行った。早速に、登録をする委員もあり「スケジュール」「掲示板」「ファイル共有」「チャット」などを多用しながら効率的な委員会運営を目指すことを確認した。

来年からは、「スポーツクライミング競技」となる国体競技、全国の仲間の皆様には引続き、国民体育大会に關しご協力と推進方よろしくお願ひ申し上げます。

(国体委員長 西原斗司男)

## 平成30年度理事会(第3回)報告

日 時：平成30年11月4日(日)

10時30分～15時10分

場 所：岸記念体育会館4階特別会議室

出席者：八木原会長、亀山・高橋・伊藤副会長、尾形専務理事、小野寺・水島・相良・仙石・蛭田・町田・村岡・合田・小日向各常務理事、谷口・小野・吉田・小宮山・森・古賀・松本・木村・工藤各理事、内藤・古屋各監事(小宮山理事は、午後退席)

欠席者：平山副会長、滝田理事、中島監事

理事数25名中、23名の出席があり、会議は成立。

(定款第33条定足数=13名)定款第32条により会長が議長を務め、議事録署名人として会長及び出席監事を指名(定款第34条による)して議事に入った。

### 1. 議 事

(1)議案第1号 平成31年度事業及び予算編成方針について

資料に基づき提案説明があり、一部修正で承認された。

(2)議案第2号 役員選考規程の一部改定について

9月8日開催の臨時理事会で継続審議となった役員選考規程改定案について諮られた。

はじめに各ブロックでの意見の集約について報告された後、改定案について審議されてから、次の3案の表決が諮られた。

第1案 現行規程のまま。

第2案 ブロック代表理事を新たに6カテゴリーにした代表理事とする。

第3案 現行規程第3条の「役員」の範囲を全廃して新たな規定とする。

表決の結果は、第1案1名、第2案4名、第3案16

名の賛成で、第3案が承認された。

続いて第3案の承認に伴い、役員選考規程の改定(案)が諮られた。

業務執行理事の常務理事の人数や理事会の形骸化を防ぐために常務理事会をなくして理事会としてはどうか、役員候補者の選考の公正さを担保するために、役員候補者選考委員会の構成メンバーは、理事会承認とすることなどが議論され、表決が諮られた。役員選考規程の改正案は、一部修正の上、賛成20、反対2で承認された。この改定で「会長・副会長候補者推薦委員会運営細則」と「役員候補者推薦委員会運営細則」は、廃止となった。

(3)議案第3号 次期役員候補者選考委員会の設置について

次期役員候補者の選考については、役員選考規程に則り、役員候補者選考委員会を設置して行うことの承認が諮られた。

議案第3号は、全員賛成で承認された。

続いて役員候補者選考委員会の構成メンバー(案)の承認が諮られ、8名の委員が全員賛成で承認された。

(4)議案第4号 次期役員改選手順について

次期役員改選の手順は、資料の手順に則って行うことの承認が諮られ、一部加筆・訂正で、全員賛成で承認された。

(5)議案第5号 正会員の入会承認について

宮崎県山岳連盟の会長変更に伴い、鳥井修一氏の入会と前正会員の古里亜夫氏の退会が諮られ、異議なく承認された。

(6)議案第6号 個人賛助会員の入会承認について

牛島源氏(福岡)の個人賛助会員の入会が諮られ、異議なく承認された。

### 2. 報 告

①平成30年度上期事業・会計報告及び監事中間監査報告

小野寺常務理事が総括・個別事業、相良常務理事が会計、古屋監事が中間監査報告をそれぞれ行った。

②平成30年度上期山岳共済会報告及び監事中間監査報告

尾形山岳共済会会長から事業・会計、古屋監事から中間監査報告が行われた。

③平成30年度第2次補正予算について

アジア選手権2018倉吉大会の収支約1,700万円の第2次補正予算が報告された。

④第73回福井国体山岳競技報告

台風の影響で従来の運営に拘らずフレキシブルな対応が求められた。

- ⑤世界選手権2018、第3回ユースオリンピック報告  
村岡常務理事から視察報告が行われた。
- ⑥世界選手権2019の経過報告  
I F S Cの対応で翻弄されているがエスフォルタアリーナ八王子での開催予定で準備していくことが報告された。
- ⑦第59回(2020年)全日本登山大会会場について  
九州ブロックの代替会場案の交渉経過について報告。千葉県での開催を交渉しているとのこと。
- ⑧業務執行理事の職務執行報告  
業務執行理事から9月～10月の職務執行の報告があった。

### 3. その他

- ①2019年行事日程について
- ②夏山リーダー制度の経過報告
- ③山岳スキーとアイスクライミングの冬季オリンピックについて

### 【役員選考規程の主な改定】

第2条の「役員の資格」では、これまでの2つの資格事項に加えてさらに5つの資格事項を追加した。(理事・監事の欠格事由を条文に加えた。)

第3条の「役員候補者選考委員会」では、委員会の構成メンバーは、会長が理事会の承認を得て委嘱することになった。

第5条の「役員候補者の推薦」では、以下のようになった。

理事の推薦は、①加盟団体の推薦(1名)②顧問、役員又は外部の学識経験者2名による推薦③会長候補者による推薦(5名迄)

監事の推薦は、①顧問、役員又は外部の学識経験者2名による推薦②委員会による推薦

第6条の「役員候補者の決定」では、最初に会長候補者を決定し、委員会は、会長候補者に対して、推薦された被推薦者から理事については35名以内、監事は5名以内を選出するよう指示する。



平成30年度10月  
常務理事会報告

日 時 平成30年10月11日(木)  
場 所 岸記念体育会館・4階特別会議室  
出席者 八木原会長、亀山、高橋、伊藤、平山の各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、相良、村岡、合田、仙石、町田の各常務理事、中畠、古屋監事  
(17名中15名出席)  
欠席者 小日向、蛭田の各常務理事

#### 1. 議 事

- (1)平成30年度9月常務理事会・議事録の承認について(事前送付済)  
異議なく承認。
- (2)平成30年度臨時理事会・議事録の承認について(事前送付済)  
異議なく承認。
- (3)平成30年度上期事業報告(案)について  
各事業報告の開催日・場所等を再確認して次回常務理事会で検討。
- (4)平成31年度事業及び予算編成方針(案)について  
一部訂正で、異議なく承認。
- (5)第3回理事会議事次第について  
一部訂正で、承認。
- (6)役員選考規程類の改定について  
a. 次回常務理事会で、従来案を1案として6カテゴリーから選考することを残し、新たな尾形案を2案とし全国の加盟団体から推薦してもらい、方向で再度検討。具体案は合田常務理事が提案。

- b. 「退職金及び退職手当支給に関する内規」は、「規程細則」に変更。
- c. 国体山岳競技関連規程は、I F S Cルールに合わせる方向で協議。
- d. アジア選手権代表選考基準について代表選考基準は早めに公表すべきと、指摘され、承認された。
- e. スポーツ不祥事をめぐる国の介入についてガバナンスの周知徹底と第3者委員会の設置。
- f. クライミングジム連盟との連携について
- g. 日本パラクライミング連盟のI F S C加盟サポートについて
- (7)次期役員候補者選考委員会設置及び改選手順について  
次回理事会に提案。
- (8)第2次補正予算について  
次回常務理事会に提案。
- (9)正会員(宮崎県)の承認について  
鳥井修一・宮崎岳連会長を理事会に提案することを承認。
- (10)賛助会員の承認について  
牛島源氏(福岡)を理事会に提案することを承認。
- (11)毎日スポーツ人賞推薦について  
該当者がいれば事務局へ推薦。
- (12)日本スポーツ賞の推薦について  
原田海選手の推薦を承認。
- (13)I F S Cゴールドメンバーについて  
継続することで承認。
- (14)Lead World Cup選手派遣(厦門、呉江)について  
提案通り、異議なく承認。

#### 2. 報告事項

- (1)平成30年度上期会計報告(案)について

- (2)第73回福井国体山岳競技報告について
- (3)J O C追加強化助成金について
- (4)世界選手権2018報告について
- (5)世界選手権2019準備について
- (6)インターハイ御礼について
- (7)第11回ウインタークライマーズミート企画書について
- (8)消費税のまとめについて
- (9)I F S C総会2019について
- (10)夏山リーダー講習会テキスト作成について
- (11)第32回L J C開催場所について
- (12)東京2020オリンピック競技施設のレガシー利用について  
以上、資料に基づいて報告があった。

#### 3. 指導員・審判員 検定結果報告

- 1. 山岳指導員申請  
(一社)岩手県山岳協会3名(菫澤優、菊池美雪、赤澤信一)  
千葉県山岳連盟2名(関研一、中村賢二)
- 2. C級→B級審判員昇格審査  
中野愛梨花(東京)、長井洋子(北海道)
- 3. C級審判員認定(神奈川独自開催)  
角田浩、青木達郎、小市尚志、斉藤友昭、相沢秀樹(以上 神奈川)
- 4. セッター研修会(南砺)  
堀創(宮城)、尾崎浩詔(長崎)、島田蒼也(大分)、清水裕登(愛媛)、酒井悠(茨城)  
以上、全員異議なく承認。

#### 4. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)広島辺境文化セミナー後援承認依頼  
異議なく承認。

#### 5. 専門委員会動静(9月～10月)

- (1)指導委員会  
9月3日(月)



出席：常任9名、専門2名、委任：4名  
 ア) 検討事項  
 ①山岳指導員申請について  
 岩手県山岳協会申請の3名は合格。  
 ②登攀研修会の開催要項(10月27, 28日)について  
 ③新指導者制度について  
 テキストの作成、オフィシャルブックへの申請、規程・規約集の改修

**(2)マーケティング委員会**

9月4日(火) メール会議：6名  
 ア) 報告事項  
 ①メディアコミュニケーション関連  
 ・リリース配信について  
 ・取材対応について  
 ・JMSCA HPの発表事項について  
 ・JMSCAパートナー関係について  
 ・アプロバル関係(3件)  
 ・アフロ関係について  
 ・アジア選手権セールスについて  
 イ) 協議事項  
 ①メディアコミュニケーション関連  
 ・リリース予定について  
 ②マーケティング関連  
 ・アジア選手権セールスについて  
 ・2019年度JMSCAパートナー継続セールスについて

**(3)国際委員会**

9月11日(火)出席：7名、委任：4名  
 ア) 報告事項  
 ・海外登山奨励金前期分選考結果  
 ニヤナン・リ隊は、タムセルク南西壁に変更して交付決定。

イ) 協議事項

①海外登山懇談会について  
 11/15(木)19:00～オリセン80人室  
 ②国内外に向けてのHP案について

**(4)遭難対策委員会**

9月2日(日) 国立登山研 出席：常任8名、専門3名、スカイプ2名  
 ア) レスキュー講習会(無雪期) 反省  
 イ) レスキュー講習会(積雪期) 開催要項について  
 ウ) 共済会について  
 ・事故調査アンケートについて  
 ・ココヘリについて  
 エ) 夏山リーダーについて

**(5)SC医科学委員会**

9月15日(土) 出席7名、委任2名  
 ア) 競技会医務担当割り当て  
 ①アジア選手権大会：7、8、9日中島、10、11日大森委員が担当  
 ②全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会：中島・加藤委員が担当  
 ③ボルダリングジャパンカップ：大森・加藤・岡坂委員が担当  
 イ) 各業務担当委員報告  
 ①救護担当  
 ・JOCジュニアオリンピックカップ報告  
 ②強化連携担当  
 ・One Tap導入関連について  
 ・BMI問題について  
 ③学術担当  
 ・学会関連について  
 ・論文関連について  
 ④パラクライミング担当  
 ・世界選手権2018対応について  
 ・日本選手権2019の協力について  
 ウ) 2020年オリンピック関連  
 ①進捗情報(中島委員)  
 ②医療担当必要人員数について(中島)  
 エ) その他

**(6)山岳スキー委員会**

9月27日(木) ネット会議  
 出席9名、委任2名  
 ア) 報告事項  
 ・ISMFLライセンス登録について  
 ・National Eventのカレンダー申請  
 イ) 協議事項  
 ①今後の山岳スキー競技について  
 ②2019年大会について  
 ・4/6(土)～7(日) 梅池高原  
 パーチカル、インディヴィジュアル

**(7)指導委員会**

10月1日(月) 出席者：常任10名、専門3名、委任4名  
 ア) 検討事項  
 ①山岳指導員申請  
 岩手県山岳協会：葦澤優、菊池美雪、赤澤信一。申請の3名は合格。  
 千葉県山岳連盟：関研一、中村賢二。申請の2名は合格。  
 ②山岳上級指導員認定は、なし。  
 ③登攀研修会開催要項(10月27, 28日)につ

いて  
 ④新指導者制度について  
 ・山岳指導者の検定基準  
 ・スポーツクライミング指導者の検定基準  
 ・テキストの作成、オフィシャルブックへの申請、規程・規約集の改修  
 ⑤その他  
 ・夏山リーダーの件

**6. その他の重要事項**

8月31日～10月10日  
 (1)平成30年度山岳レスキュー講習会・東部地区 8月31日(金)～9月2日(日) 於：国立登山研修所 町田常務理事・遭対委員長  
 (2)上記においてJSC調査における対応 町田常務理事・遭対委員長  
 (3)上月財団スポーツ賞表彰式 9月5日(水) 於：ザ・リッツ・カールトン東京 尾形専務理事、小野寺常務理事  
 (4)IFSC世界選手権 9月6日(木)～16日(日) 於：インスブルック 平山副会長、村岡常務理事、小日向常務理事  
 (5)全国山の日協議会運営委員会 9月7日(金) 於：四谷健康保険センター 尾形専務理事  
 (6)AD活動の推進に関する研修会 9月7日(金) 於：品川プリンスホテル 尾形専務理事  
 (7)平成30年度臨時理事会 9月8日(土) 於：フォーラムエイト802 八木原会長他各理事・監事  
 (8)第73回福井国体山岳競技組合抽選会 9月9日(日) 於：岸記念体育会館103号室 尾形専務理事、  
 (9)兵庫県山岳連盟創立70周年記念祝賀会 9月9日(日) 於：神戸登山研修所 八木原会長  
 (10)安全登山指導者研修会(東部地区) 9月15日(土)～17日(月) 於：埼玉県金勝山周辺 八木原会長、仙石常務理事  
 (11)東京2020大会オリンピック・マーケティングに関する説明会 9月21日(金) 於：虎ノ門ヒルズ9F 尾形専務理事、小野寺常務理事  
 (12)ネパールナショナルデー 9月21日(土) 於：ホテルオークラ2F

寄贈図書		
広報誌	ソル・メディア	「CLIMBERS」# 009
	国土緑化推進機構	グリーン・モア 第83号
	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	2020たより vol.10
雑誌	Club alpino italiano	「Montagne360」November2018
	Club alpino italiano	「Montagne360」October2018
報告書	(株)山と溪谷	「山と溪谷」No.1003 11月号
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.857
	日本山岳文化学会、日本ヒマラヤ協会	山の文化 in Fukushima
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.486
	長野県山岳協会	「やまなみ」No.230
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」No.616
	井上 佑	支援員だより 第28号
	(一社)大阪府山岳連盟	山岳 おおさか No.218
	やまびこ山想会	やまびこ
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.525
会報	HAT-J	HAT-J NEWS No.111
	日本防火・防災協会	地域防災 No.22
	東京野歩路会	「山嶺」VOL.96
	炉辺会	炉辺通信 No.188
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第457号

超肌着力  
 想像をはるかに超える“保温力”

- 八木原会長、小野寺常務理事
- (13)第3回ユースオリンピック大会結団式  
9月30日(日) 於: グランドプリンスホテル高輪プリンスルーム 八木原会長
  - (14)第1回ナショナルトレニングセンター委員会 10月1日(月) 於: NTC 尾形専務理事
  - (15)第73回国民体育大会福井大会山岳競技会 10月4日(休)~7日(日)  
於: 福井県今立郡池田町藪田 八木原会長、平山副会長、村岡常務理事、西原委員長
  - (16)UIAA/UAA総会 10月4日(休)~9日(火)  
於: ウランバートル 小野寺常務理事
  - (17)第3回ユースオリンピック大会 10月6日(土)~18日(休) 於: ブエノスアイレス 西谷コーチ他3選手

## 表紙のことは

タルン・ピーク(7,349m)は、カンチェンジュンガの南約6kmに位置する。東にタルン氷河、西にヤルン氷河が流下し、北にはタルン・サドルを挟んでカンチェンジュンガが聳える。南には山体の大きなカブルーがあって、標高の割にはあまり見栄えのしない山として不遇を囲ってきた。そのため、1955年カンチェンジュンガの初登頂を果たしたイギリス隊が頂上からの写真を持ち帰るまで、その標高について物議を醸してきた。

表紙写真は、カンチェンジュンガのグレート・シェルフから見たタルン・ピークとカブルー北峰(右)

(写真撮影者・尾形好雄)

## 編集後記

先日開催された第3回理事会で次期役員選考にあたり大きな変革が決議された。概要は本誌の通りで素早い決断と仕事がこなせる陣容が目的だ。本協会を発電装置に置き換えて考えると山岳は太陽光発電、容量が小さいが集めると大きなパワーなる。一方スポーツクライミングは東京2020五輪の勢いもあって火力発電ということか。いずれにせよ息切れしないメンテナンスとベクトル合わせが肝要だ。チームファースト!!

(広報担当 水島彰治)

**一般財団法人 日本トレイルランニング協会**

〒252-0184  
神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
☎042-687-4011 FAX 042-687-3980  
E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

**NPO法人 北丹沢山岳センター**  
神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- ・北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- ・陣馬山トレイルレース実行委員会
- ・道志村トレイルレース実行委員会
- ・八重山トレイルレース実行委員会
- ・東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- ・上野原秋山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

**登山月報 第596号**

定価 110円(送料別)  
予約年間 1,300円(送料共)  
昭和45年12月12日  
第三種郵便物認可  
(毎月1回15日発行)

発行日 平成30年11月15日  
発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
岸記念体育会館内  
公益社団法人  
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-3481-2396  
FAX 03-3481-2395

山岳  
雑誌

# 岳人

がくじん  
山と人、時代をつなぐ「岳人」



**12月号**  
発売中

【特集】山の事故から身を守る

★モンベルのウェブサイト  
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格815円(+税)

年間購読がおすすです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読なら12冊  
~~9,780円~~ (+税) → **8,965円** (+税)  
1年間で815円  
1冊分無料!

年間購読特典 岳人オリジナルグッズをプレゼント!

岳人  
ミニワレット  
(2個セット)

サイズ:9×10cm  
※カラーはお選びいただけません

さらに  
はじめて  
お申し込みの方に

ご継続の方に  
特製  
マジンBOX

岳人ピンバッジ



あなたを守る。  
あしたを作る。  
三井住友海上

損害保険と聞いて、  
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ること、その両方を繰り返しながら前へ歩み続けます。

みつ い すみ とも かい じょう  
三井住友海上  
時空保険  
探査部  
Space-time Insurance  
Exploration Department

人類にとっての  
損害保険の  
必要性を調査。

時空を超える  
ゲート。

社員証をかざせば  
タイムワープ。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上





# 山岳保険の加入は 登山者のマナーです

あなたの山岳保険は大丈夫ですか？

- |                                    |                                 |
|------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 傷害死亡・後遺障害 | <input type="checkbox"/> 遭難捜索費用 |
| <input type="checkbox"/> 救援者費用     | <input type="checkbox"/> 傷害入院費用 |
| <input type="checkbox"/> 傷害通院費用    | <input type="checkbox"/> 傷害手術費用 |
| <input type="checkbox"/> 個人賠償責任    |                                 |

**日山協 山岳共済会** 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail [sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp](mailto:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp)

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。  
公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会  
携帯サイト ([www.jma-sangaku.or.jp/mobile/](http://www.jma-sangaku.or.jp/mobile/))



WEBからもお申込みいただけます ([www.sangakukyousai.com](http://www.sangakukyousai.com))